

<原著>

## 自尊心が社交不安に及ぼす影響 —他者からの否定的評価の恐れと肯定的評価の恐れに着目して—

羽毛田佳音 信州大学大学院総合人文社会科学研究科  
向井秀文 信州大学学術研究院教育学系

### 概要

顕在的自尊心 (Explicit Self-Esteem : ESE) と潜在的自尊心 (Implicit Self-Esteem : ISE) の不一致は社交不安と関連がみられ、抑うつ的反芻など認知面にも影響を及ぼすことが明らかになっている。本研究では、社交不安の認知的要素である他者からの否定的評価に対する恐れ (Fear of Negative Evaluation : FNE) や肯定的評価に対する恐れ (Fear of Positive Evaluation : FPE) と社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の調整効果について検討することを目的とした。分析の結果、FNE や FPE と社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の調整効果は認められなかった。その要因としては、ISE が文脈に依存する性質があることや、先行研究との実験条件の違いが考えられた。今後は、実験条件の設定や様々な年齢層に調査を行う必要があると考えられる。

**キーワード：**社交不安、他者からの否定的評価に対する恐れ、他者からの肯定的評価に対する恐れ、顕在的自尊心、潜在的自尊心

### はじめに

社交不安症 (Social Anxiety Disorder : 以下 SAD とする) とは、人前での行動に強い不安や恐怖をおぼえる精神疾患である (American Psychiatric Association, 2013)。米国で行われた調査では、18 歳以上の生涯有病率は 12.1% と高く (Kessler et al., 2005)、10 代半ばで発症しやすい疾患であることが明らかになっている (Merikangas et al., 2010)。また、臨床群を対象とした研究だけでなく、非臨床群における研究も検討されている。McNeil (2010) は、日常生活に支障をきたさない社交不安と SAD における症状について、質的な違いはなく、連続性を指摘している。つまり、SAD 患者が示す社交不安と疾患レベルにない健常者が示す社交不安には症状の違いはさほどなく、症状の強さの違いであると言える。以上のことから、疾患レベルにない非臨床群から社交不安症状の悪化のメカニズムを検討することは妥当であると考えられ、本研究では非臨床群を対象に検討を行う。

## 問題と目的

### 社交不安に影響を及ぼす認知的要素：他者からの否定的評価に対する恐れ

社交不安の症状を維持する認知的要素として、他者からの否定的評価に対する恐れが挙げられる。他者からの否定的評価に対する恐れ (Fear of Negative Evaluation: 以下 FNE とする) とは、他者からの否定的評価を苦痛に感じる認知バイアスである。以前の社交不安に関する研究では、他者から受ける評価の否定的な側面が重要視されていた (Clark & Wells, 1995)。しかし、近年では肯定的な評価の恐れも社交不安の維持要因となる可能性が指摘されている (Weeks et al., 2008)。

### 社交不安に影響を及ぼす認知的要素：他者からの肯定的評価に対する恐れ

他者からの肯定的な評価に対する恐れ (Fear of Positive Evaluation: 以下 FPE とする) とは、他者からの肯定的評価を苦痛に感じる認知バイアスである (Weeks et al., 2008)。Weeks & Howell (2012) は、FNE と FPE が社交不安に正の関係があることを示している。このように、FPE は社交不安の維持や増悪に影響を与えるものであるため、社交不安症状の症状維持や悪化の要因として、FNE だけでなく FPE を含めた検討は重要であると考えられる。

Heimberg et al. (2010) が提唱した認知行動モデルでは、新たに FPE を含めた他、FNE や FPE の認知的バイアスは否定的な自己像の形成に影響を及ぼすことを示している。他の認知行動モデルにおいても、否定的な自己像は社交不安の維持に中核的な役割があると言われてきた (Clark & Wells, 1995)。この否定的な自己認識を活性化するものとして、自尊感情が挙げられている (de Jong, 2002)。このことから、自尊感情は社交不安に影響を及ぼす要因の1つとして挙げられると考える。そして、自尊感情は社交不安だけでなく、社交不安の認知的特徴である FNE や FPE と負の関連があることが明らかになっている (Cheng et al., 2015)。以上のことから、自尊感情の低さは社交不安に悪影響を与えるだけでなく、SAD に特徴的な認知的要素においても悪影響を及ぼすものである。

### 社交不安に関連する要素：自尊感情

自尊感情とは、自己に対する肯定的または否定的態度である (Rosenberg, 1965)。自尊感情は、抑うつや不安、絶望感などと負の相関にあり、精神的な健康に影響を及ぼすものとして捉えられている (桜井, 2000)。さらに自尊感情は、SAD との関係について多くの研究がされている。例えば、社交不安が高い者は自尊感情が低いことが明らかになっている (Kocovski & Endler, 2000)。また、van Tuijl et al. (2014) は自尊感情が SAD を予測する負の因子であることを示している。以上の先行研究から、自尊感情は SAD と強いつながりのある要素であり、自尊感情の低下は社交不安の悪化に関連する要素であると言える。そのため、自尊感情が高く安定していると社交不安の悪化が抑制され、精神的な健康が保たれると捉えることができる。しかしながら近年では、自尊感情が高くても他者に対する批判攻撃行動が見られるなど (Baumeister et al., 1996)、自尊感情の高さが精神健康上望ましいという考えに疑問があがっている。

### 顕在的自尊感情と潜在的自尊感情の不一致

自尊感情の高さは、適応的な認知や行動と不適応な側面の両側面と関連が示されている。Jordan et al. (2003) は、自尊感情を自分で意識できる顕在化された自尊感情と自身では自覚できない無意識下にある潜在的な自尊感情に区別し、それらの組み合わせによって、種類の異なる高い自尊感情の特徴を明らかにした。その結果、顕在的な自尊感情が高い者の中には、潜在的な自尊感情が高い者と低い者がいることが示された。前者は幸福感や生活に対する満足度が高い状態であり、安定的な自尊感情を持っている。後者は、自己愛の高さや内集団ひいきの強さなど、防衛的で潜在的に不適応とみなされる行動との関係性があることが明らかになっている (藤井, 2014; 市川・望月, 2015)。他にも、顕在的な自尊感情が低く、潜在的な自尊感情が高い状態である者は、顕在的な自尊感情がより低いほど抑うつ傾向や不安、自殺念慮、そして孤独感が高いことが明らかになっている (Creemers et al., 2012; 藤井, 2014)。以上のことから、顕在的な自尊感情と潜在的な自尊感情の両者が高い状態は、安定した状態であり適応的に機能する。一方で、顕在的な自尊感情と潜在的な自尊感情の高さが一致していない、不一致な状態は心理的な不健康や不適応状態に結びつくと言える。

### 顕在的自尊感情と潜在的自尊感情の不一致と社交不安

顕在的な自尊感情と潜在的な自尊感情は、それぞれ別々の概念であり、異なる機能を果たすと考えられている (Bosson, Brown et al., 2003)。Greenwald & Banaji (1995) は、潜在的自尊感情 (implicit self-esteem: 以下 ISE) を「自己に連合した、あるいは自己に連合していない対象への評価に基づいた、内省的に識別できない、あるいは正確に識別できない、自己への態度の効果」と定義している。そして、質問紙など自己評定式で測定される顕在的自尊感情 (explicit self-esteem: 以下 ESE) は、「意識的な自己に対する行為、自己価値、自己受容などの感覚を反映する」と定義されている (市川・望月, 2015)。

ESE と ISE の不一致は、ネガティブ感情との関連だけではなく、SAD にも影響を及ぼすことが示されている。例えば、Schreiber et al. (2012) は、SAD の青年と健常的な状態の青年の ESE と ISE の不一致について調査し、SAD の青年群も健常群も同程度の ISE を示したのに対し、SAD 群は健常群に比べて低い ESE を示した。これらの研究から、ESE だけではなく、ISE を含めた ESE との不一致な状態が社交不安を悪化させる要因である可能性が示唆される。

### 顕在的自尊感情と潜在的自尊感情の不一致と他者からの評価に対する恐れに関連

ESE と ISE の不一致は様々な認知的要素に悪影響を及ぼすことがある。例えば、Phillips & Hine (2014) は、抑うつの反すうとの関連を示している。このことから、ESE と ISE の不一致が社交不安の認知的特徴である FNE や FPE とも関連する可能性が考えられる。先行研究では、ESE のみを用いて FNE や FPE との関連について検討しており、ESE と FNE や FPE は負の相関にあることや、ESE と社交不安の間に FNE や FPE の媒介効果が見られ

ている (Cheng et al., 2015 ; Gök & Yalcinkaya-Alkar, 2022)。以上のことから、ESE と ISE の不一致は社交不安に影響を及ぼす FNE や FPE をさらに促進させる可能性がある。いくつかの研究では、ESE と ISE を標準得点化し、ESE と ISE の差の絶対値をESE と ISE の不一致の大きさという量的変数として用いて、自尊感情の不一致の大きさと不適応な概念との関連を検討している (市川・望月, 2015 ; Creemers et al., 2012)。社交不安に関する研究では、ESE と ISE の相対的な不一致が社交不安と関連していることが示されているが、不一致の大きさとの関連についてはあまり検討がされていない。不一致の大きさが大きいほど、様々な不適応の特徴がより強くなることから、ESE と ISE の不一致が大きいほど、他者からの評価に対する恐れが強くなると考える。

**本研究の目的**

以上のことから、本研究ではESE と ISE の不一致の大きさと FNE, FPE, 社交不安との関連を検討することを目的とする。ESE と ISE の不一致は不適応な認知や行動との関連が見られ、社交不安に影響を及ぼす認知的特徴である FNE や FPE を促進させることが推測される。そこで、本研究では、他者からの評価に対する恐れと社交不安の関連はESE と ISE の不一致の大きさに調整されるとの仮説を立て、検討を行う。これらの関連性について検討することで、認知面における社交不安の悪化メカニズム解明の一助となると考える。また、社交不安への介入方法として、ESE と ISE の不一致の大きさに焦点を当てたアプローチが効果をあげる可能性を明らかにできると考える。本研究の仮説モデルは以下の通りである (図 1, 図 2)。

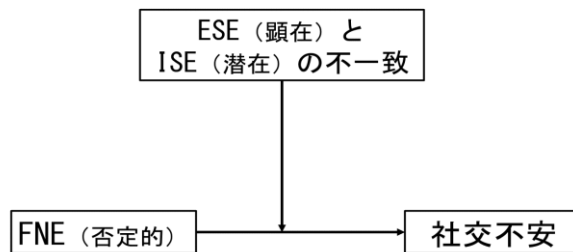


図 1 FNE と社交不安の関連におけるESE と ISE の不一致の調整効果

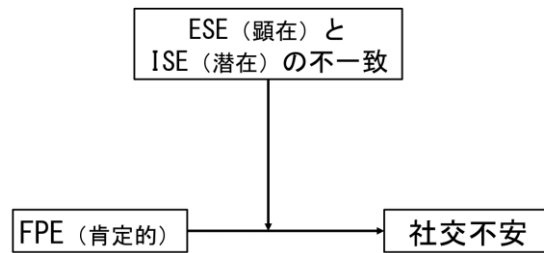


図2 FPE と社交不安の関連における ESE と ISE の不一致の調整効果

## 方法

### 研究参加者

中部地方にある国立大学の大学生及び大学院生 54 名 (男性 20 名, 女性 34 名, 平均年齢 21.37 歳,  $SD = 1.48$ ) であった。

### 手続き

研究参加者は, 縁故法を用いて募集した。知人への声掛け, LINE やメールでのメッセージを通じて, 研究協力を募り, 研究協力の承諾が得られた方を実験・調査対象とした。潜在連合テスト (Implicit Association Test : 以下 IAT ; Greenwald, McGhee et al., 1998) による ISE の測定と Google form による質問紙調査を実験室にて行った。刺激の提示および IAT による反応時間の記録には Lab.js (大杉・小林, 2021) を使用した。参加者は研究に関する説明を受けた後に IAT 課題の実施方法の説明を受け, コンピューター上で IAT 課題を実施した。その後, Google form による質問紙調査に回答を求めた。

### IAT 手続き

IAT 課題は PC 画面上にランダムに提示される刺激語を画面の左右に提示された 2 種類の概念カテゴリー (自己—他者) および 2 種類の属性カテゴリー (快—不快) のうち該当するカテゴリーにできる限り早く分類するものである。ブロック構成および試行数は Greenwald, McGhee et al. (1998) に依拠した。IAT の刺激語は, 藤井他 (2014) の自尊感情 IAT の刺激語を用いた。

### 潜在的自尊感情

IAT によって算出されたデータから, Greenwald, Nosek et al. (2003) に従って IAT 得点 (D スコア) を算出し, ISE 得点とした。

### 質問紙調査で使用した尺度

**デモグラフィック項目** 年齢と性別の回答を求めた。年齢については数字を入力することによって回答を求めた。

**他者からの否定的評価に対する恐れ** 他者からの否定的評価に対する恐れの測定には、日本版 Fear of Negative Evaluation Scale 短縮版尺度 (笹川他, 2004) を使用した。全 12 項目で構成され、「人がなんと思おうと、どういうことではないとわかっている、自分のことを人がどう思うか気になる。」等の項目例がある。回答は、「1 = まったくあてはまらない」から「5 = 非常にあてはまる」の 5 件法で評定を求めた。

**他者からの肯定的評価に対する恐れ** 他者からの肯定的評価に対する恐れの測定には、Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版尺度 (前田他, 2015) を使用した。全 10 項目で構成され、「たとえ自分の能力が他の人にいい印象を与えていると思っても、他の人に自分の能力を誇示することは不快に感じる。」等の項目例がある。回答は、「0 = 全く当てはまらない」から「9 = とても当てはまる」の 10 件法で評定を求めた。

**社交不安** 社交不安の測定には、The Social Interaction Anxiety Scale 日本語版 (金井他, 2004) を使用した。全 20 項目で構成され、「目上の人 (先生, 上司など) と話さなければならない時、緊張する。」等の項目例がある。回答は、「0 = まったくあてはまらない」から「4 = 非常にあてはまる」の 5 件法で評定を求めた。

**顕在的自尊感情** 顕在的自尊感情の測定には、Rosenberg (1965) 自尊感情尺度日本語版 (桜井, 2000) を使用した。全 10 項目で構成され、「私は自分に満足している。」等の項目例がある。回答は、「1 = いいえ」から「4 = はい」の 4 件法で評定を求めた。

**顕在的自尊感情と潜在的自尊感情の不一致の大きさ** 市川・望月 (2015) に従い、ESE と ISE の不一致の大きさを算出した。

#### 倫理事項

本研究は、信州大学教育学部研究委員会倫理審査部会の承認を得て実施した (管理番号 23-13)。

## 結果

### 相関分析

まず、FNE, FPE, SIAS, ESE, ISE, ESE と ISE の差、各変数間の相関係数を算出した (表 1)。その結果、FNE と SIAS の間に中程度の正の相関が認められた ( $r = .42, p < .01$ )。また、FPE と SIAS の間に中程度の正の相関が認められた ( $r = .44, p < .01$ )。ESE に関しては、FNE ( $r = -.46, p < .01$ ) と、FPE ( $r = -.42, p < .01$ ) と、SIAS ( $r = -.56, p < .01$ ) との間のそれぞれに中程度の負の相関が認められた。

表1 記述統計と相関

	1	2	3	4	5	6	<i>M</i>	<i>SD</i>
1.FNE	—						42.30	10.48
2.FPE	.06	—					38.09	11.17
3.SIAS	.42**	.44**	—				37.96	14.18
4.ESE	-.46**	-.42**	-.56**	—			25.44	6.43
5.ISE	-.02	.07	-.05	.14	—		-0.07	0.73
6.自尊感情の差	-.09	.01	.17	.03	-.01	—	1.06	0.78

\*\*  $p < .01$

階層的重回帰分析

次に、FNE と社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の大きさの調整効果を検討するために、階層的重回帰分析を行った (表 2)。社交不安を目的変数として、Step1 に FNE と ESE と ISE の差分を説明変数として投入し、Step2 に Step1 の説明変数とその交互作用項を投入した。分析の結果、Step1 の説明率は  $R^2 = .22$  であり、ESE と ISE の差分の主効果は有意ではなく ( $\beta = .21$ )、FNE の主効果は有意であった ( $\beta = .43, p < .01$ )。また、Step2 の FNE と ESE と ISE の差分の交互作用項の分散説明率の増分は有意でなかった ( $\Delta R^2 = .00$ )。

表2 FNE と SIAS の関連に対する ESE と ISE の差分の調整効果

変数名	step1			step2		
	<i>b</i>	<i>SE</i>	$\beta$	<i>b</i>	<i>SE</i>	$\beta$
切片	37.96	1.74	-	37.95	1.77	-
FNE	0.59	0.17	.43**	0.59	0.17	.44**
ESE-ISE	3.77	2.28	.21	3.73	2.35	.20
FNE × ESE-ISE				-0.02	0.21	-.01
$R^2$		.22**			.22**	
$\Delta R^2$					.00	

\*\*  $p < .01$

そして、FPE と社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の大きさの調整効果を検討するために、階層的重回帰分析を行った (表 3)。社交不安を目的変数として、Step1 に FPE

と ESE と ISE の差分を説明変数として投入し、Step2 に Step1 の説明変数とその交互作用項を投入した。分析の結果、Step1 の説明率は  $R^2 = .22$  であり、ESE と ISE の差分の主効果は有意ではなく ( $\beta = .16$ )、FPE の主効果は有意であった ( $\beta = .44, p < .01$ )。また、Step2 の ESE と ISE の差分と FPE の交互作用項の分散説明率の増分は有意ではなかった ( $\Delta R^2 = .04$ )。

表3 FPE と SIAS の関連に対する ESE と ISE の差分の調整効果

変数名	step1			step2		
	<i>b</i>	<i>SE</i>	$\beta$	<i>b</i>	<i>SE</i>	$\beta$
切片	37.96	1.73	-	37.95	1.70	-
FPE	0.56	0.16	.44**	0.54	0.15	.43**
ESE-ISE	2.99	2.26	.16	2.70	2.23	.15
FPE × ESE-ISE				0.33	0.20	.20
$R^2$		.22**			.26**	
$\Delta R^2$					.04	

\*\*  $p < .01$

以上、ESE と ISE の差分、他者からの評価に対する恐れ、社交不安の3変数を用い、階層的重回帰分析を行った結果、他者からの評価に対する恐れと社交不安の関係に対する ESE と ISE の不一致の大きさの調整効果は示されなかった。しかし、ESE と ISE の不一致の方向性 (ESE が高く ISE が低いという ESE が優位な方向性と、ESE が低く ISE が高いという ISE が優位な方向性) によって、社交不安と他者からの評価に対する恐れとの関連における調整効果は異なるのかについて調べるため、ここから補足的に検討を行った。

これまでの分析では、ESE と ISE の不一致の大きさに着目し、ESE と ISE の差分を1つの調整変数とした、社交不安と他者からの評価に対する恐れとの関連における調整効果について検討を行った。次に行う補足的な分析では、ESE と ISE の不一致の方向性に着目するため、ESE と ISE を2つの調整変数として用い、社交不安と他者からの評価に対する恐れとの関連における調整効果の検討を行う。

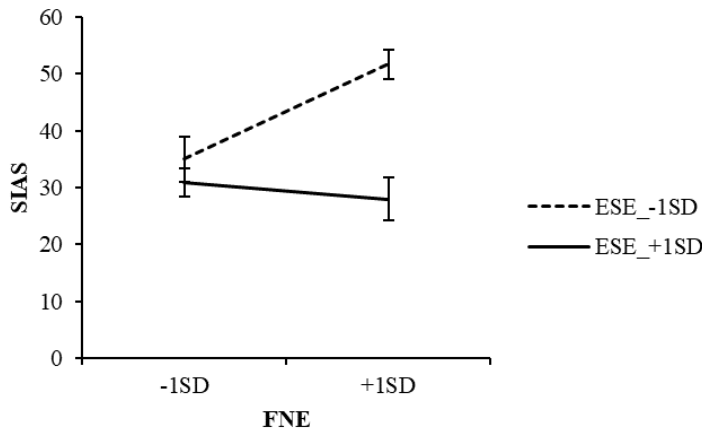
#### 階層的重回帰分析：ESE と ISE の2変数を調整変数とした場合

ESE と ISE の2変数を使用し、FNE と社交不安の関連に対する、ESE と ISE の不一致の方向性による調整効果を検討するために、FNE と ESE と ISE を説明変数、社交不安を目的変数として、階層的重回帰分析を行った。Step1 に FNE と ESE と ISE を説明変数として投入し、Step2 に Step1 の説明変数と、一次の交互作用として、FNE と ESE の交互作用項、FNE と ISE の交互作用項、ESE と ISE の交互作用項を投入した。そして、Step3 に Step1 の



説明変数と Step2 の一次の交互作用項と二次の交互作用項 (FNE と ESE と ISE の交互作用項) を投入した。分析の結果, Step1 の説明率は  $R^2 = .35$  であり, ESE のみ主効果は有意であった ( $\beta = -.47, p < .01$ )。Step2 において決定係数の増加分が有意であり ( $\Delta R^2 = .14, p < .01$ ), FNE と ISE の交互作用項において有意であった ( $\beta = -.38, p < .01$ )。Step3 では, 決定係数の増加分が有意ではなく ( $\Delta R^2 = .00$ ), FNE と ESE と ISE の交互作用項は有意ではなかった ( $\beta = -.07$ )。

次に, Step2 で得られた FNE と ESE の交互作用の詳細を検討するために, 単純傾斜の有意性の検定を行った (図 3)。その結果, ESE が高い場合 (+1SD) は, FNE の傾きにおいて有意な傾斜は認められなかった ( $b = -0.14, t = -0.67, p = .059$ )。一方で, ESE が低い場合 (-1SD) には, FNE が高いほど, 社交不安も高くなることが示された ( $b = 0.80, t = 3.61, p < .01$ )。



注: エラーバーは標準誤差

図 3 ESE の得点ごとの FNE と社交不安の関連

次に, FPE と社交不安の関連に対する, ESE と ISE の不一致の方向性による調整効果を検討するために, FPE と ESE と ISE を説明変数, 社交不安を目的変数として, 階層的重回帰分析を行った。階層的重回帰分析を行った。分析の結果, Step1 の説明率は  $R^2 = .37$  であり, FPE の主効果は 5%水準で有意であった ( $\beta = -.25, p < .05$ )。また, ESE の主効果は有意であった ( $\beta = .25, p < .01$ )。Step2 において決定係数の増加分が有意ではなく ( $\Delta R^2 = .04$ ), 全ての交互作用項は有意ではなかった。Step3 では, 決定係数の増加分が有意ではなく ( $\Delta R^2 = .01$ ), FPE と ESE と ISE の交互作用項も有意ではなかった ( $\beta = -.10$ )。

## 考察

本研究の目的は、ESE と ISE の不一致の大きさが他者からの評価に対する恐れを促進させるか検討することであった。

まず、相関分析では、FNE 及び、FPE と社交不安の間に中程度の正の相関が見られた。つまり、FNE や FPE が高いと社交不安が高いことが示唆された。そして、FNE と FPE の間には有意な相関はみられなかった。また、ESE は FNE, FPE, 社交不安の3変数との間で中程度の負の相関が認められた。一方で、ISE は全ての変数と有意な相関はみられなかった。

続いて、他者からの評価に対する恐れと社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の大きさの調整効果を検討するために、階層的重回帰分析を行った結果、ESE と ISE の不一致の大きさの調整効果は認められなかった。また、ESE と ISE の不一致の方向性による調整効果の違いを調べるため、ESE と ISE の2変数を調整変数とし、補足的に検討を行った。階層的重回帰分析を実施した結果、FNE (または FPE) と ESE と ISE の交互作用項に有意な効果はみられなかったため、他者からの評価に対する恐れと社交不安の関連に対する ESE と ISE の不一致の方向性による調整効果は認められなかった。

以上のことから、他者からの評価に対する恐れと社交不安の関連は ESE と ISE の不一致に調整されるという本研究の仮説は支持されなかった。仮説が支持されなかったことについては次のように考察する。

まず、仮説が支持されなかった理由として、ISE の持つ性質が挙げられる。いくつかの先行研究では、スピーチ課題を課すことを提示した後に社交不安の高い者は ESE が低く、相対的に ISE は高いという結果を示している (Tanner et al., 2006; de Jong, 2002)。また、van Tuijl et al. (2014) は、縦断調査において ISE が社交不安の予測因子でないことを明らかにしている。このことから、ISE は文脈に依存し影響されやすい特性を持っている可能性が考えられる。そして、Hiller et al. (2017) は、スピーチ課題を課さない条件下において、SAD 群と非臨床群の間に ISE の得点に差がなかったことを示している。また、SAD 患者の自己評価は、社会的脅威を感じない状況において肯定的な評価であることを提唱している (Clark & Wells, 1995)。以上の先行研究をもとに考えると、今回はスピーチ課題を課さず、社会的脅威を喚起しない状態で実験を行ったため、社交不安の高い者は安定した状態であり、社交不安の低い者との間における ISE の違いがみられなかった可能性がある。

仮説を支持しないもう1つの要因は、研究参加者の属性である。本研究は縁故法により参加者を募集したため、教育学や心理学専攻の大学生や大学院生がほとんどであった。そのため、心理学実験の一環として IAT の仕組みや操作について授業等で既に学習していた可能性がある。先行研究では、IAT への反応における学習過程が実証されている (Ebert et al., 2009)。そのため、参加者が操作手順等に慣れていたことから、本研究では ISE に差がでなかったということも可能性として挙げられると考える。

3つ目に考えられる理由として、ISE は ESE を調整する役割をもつことが挙げられる。Bosson, Brown et al. (2003) は、ISE は低い ESE の影響を緩衝し、自己に向けられる脅威への防衛機制として機能するという考えを示している。本研究において、他者からの評価に対する恐れとの関連が見られなかったことも踏まえると、ISE は主に ESE が低下した時に生じる不快感情から守るために自動的に上昇し、自尊感情のバランスを調整する役割として機能している可能性が考えられる。Hiller et al. (2017) は、スピーチ課題を設定した条件群において、SAD 群では ISE の低下が見られ、非臨床群では ISE の上昇が見られたことを示した。このことから、社交不安の高い者は、社会的脅威が生じた際に低下した ESE を補償するために上昇するはずの ISE が十分に機能していない状態である可能性が考えられる。

### 本研究の意義

本研究では社交不安に対する ESE の主効果が認められた。また、FNE と社交不安の関連における ESE と ISE の調整効果を検討した結果、FNE と ESE の交互作用が認められた。単純傾斜の有意性の検定を行った結果、ESE が高い場合は、FNE の傾きにおいて有意な傾斜は認められない一方で、ESE が低い場合には、FNE が高いほど、社交不安も高くなることが示された。このことから、ESE は社交不安や FNE を緩和する効果を持つ重要な関連要素であることが考えられる。先行研究においても、ESE と社交不安や FNE は負の関連性があることが報告されている (Kocovski & Endler, 2000)。その他にも縦断的な調査では、ESE と ISE の交互作用や ISE は SAD 症状を予測せず、ESE のみが SAD 症状を予測する負の因子になるという結果を示している (van Tuijl et al., 2014)。このように、一貫して ESE が社交不安や認知的要素に及ぼす効果が示されていることや、今回の結果を踏まえると、ESE の低さが他者からの評価に対する恐れを高めたり、社交不安に悪影響を及ぼす可能性が示唆される。そのため、ESE を高めることが SAD 症状の増加を抑える可能性が挙げられる。Warnock-Parkes (2022) は、社交不安の認知療法において、患者自身が肯定的な自己評価を強めていく必要性を示している。このように ESE への介入は、社交不安の予防や症状の緩和に効果的であることが推察される。

### 本研究の限界と今後の課題

最後に、本研究の限界点と今後の課題について言及する。1 つ目は参加者年齢の偏りである。本研究の年齢層は 19 歳～25 歳であった。de Jong et al. (2012) は、中学生を対象に ESE と ISE と社交不安の関連について検討し、女性において ESE と ISE の交互作用が社交不安に影響を及ぼす可能性を示している。このことから、年代や属性によって、ESE と ISE が社交不安に及ぼす影響が異なることが考えられ、今後は年齢層ごとに調査を行う必要があると思われる。

2 つ目は、実験場面における条件設定である。前述したように、本研究では、調査を実施する際にスピーチ課題を設定しなかった。いくつかの先行研究では、スピーチ課題の実施後に ESE と ISE の測定を行い、ESE と ISE の不一致や SAD 群の ISE の低下を明らかに

している (de Jong, 2002 ; Hiller et al., 2017)。このことから、社会的脅威が予期されるような場面を設定することによって、有効的な ISE の測定ができると考える。今後はスピーチ課題前後の ESE と ISE を測定し、課題前と課題後の ESE と ISE が社交不安に関する概念に及ぼす影響について比較調査をする必要があると考える。

3つ目は、ISE の測定手段である。本研究では ISE を測定する方法として、信頼性や妥当性の観点から IAT を用いた。いくつかの先行研究では、name-letter task (Nuttin, 1985) を用いて検討している (Creemers et al., 2012 ; 藤井, 2014)。両者の相関関係は弱いことが明らかになっている (Bosson, Swann et al., 2000)。このことから、いくつか存在する ISE の測定方法は、ISE の異なる側面を測定している可能性が示唆され、様々な方法を用いて ISE について多面的な検討を行う必要があると考える。今後の研究では、これらの課題を考慮して検討していくことが望まれる。

### 付記

本研究は、信州大学大学院総合人文社会科学研究科に提出した修士論文の一部を加筆・修正したものである。

### 引用文献

- American Psychiatric Association. (2013). *Diagnostic and statistical manual of mental disorders* (5th ed.). American Psychiatric Association.
- Baumeister, R. F., Smart, L., & Boden, J. M. (1996). Relation of threatened egotism to violence and aggression: The dark side of high self-esteem. *Psychological Review*, *103*, 5-33.
- Bosson, J. K., Brown, R. P., Zeigler-Hill, V., & Swann, W. B. (2003). Self-enhancement tendencies among people with high explicit self-esteem: the moderating role of implicit self-esteem. *Self & Identity*, *2* (3), 169-187.
- Bosson, J. K., Swann, W. B. Jr., & Pennebake, J. W. (2000) Stalking the perfect measure of implicit self-esteem: The blind men and the elephant revisited? *Journal of Personality and Social Psychology*, *79* (4), 631-643.
- Cheng, G., Zhang, D. & Ding, F. (2015). Self-esteem and fear of negative evaluation as mediators between family socioeconomic status and social anxiety in Chinese emerging adults. *International Journal of Social Psychiatry*, *61*(6), 569–576.
- Clark, D. M., & Wells, A. (1995). A cognitive model of social phobia. In R. G. Heimberg, M. R. Liebowitz, D. A. Hope, & F. R. Schneier (Eds.), *Social Phobia: Diagnosis, assessment, and treatment*. (pp. 69–93). New York: Guilford Press.
- Creemers, D. H. M., Scholte, R. H. J., Engels, R. C. M. E., Prinstein, M. J., & Wiers, R. W. (2012). Implicit and explicit self-esteem as concurrent predictors of suicidal ideation, depressive

- symptoms, and loneliness. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, 43 (1), 638-646.
- de Jong, P. J. (2002). Implicit self-esteem and social anxiety: differential self-favouring effects in high and low anxious individuals. *Behaviour Research and Therapy*, 40 (5), 501-508.
- de Jong, P. J., Sportel, B. E., de Hullu, E., & Nauta, M. H. (2012). Co-occurrence of social anxiety and depression symptoms in adolescence: Differential links with implicit and explicit self-esteem? *Psychological Medicine*, 42, 475-484.
- Ebert, I. D., Steffens, M. C., von Stülpnagel, R., & Jelenec, P. (2009). How to like yourself better, or chocolate less: Changing implicit attitudes with one IAT task. *Journal of Experimental Social Psychology*, 45, 1098-1104.
- 藤井勉 (2014). 顕在的・潜在的自尊感情の不一致と抑うつ・不安および内集団ひいきの関連 心理学研究, 85 (1), 93-99.
- 藤井勉・澤海崇文・相川充 (2014). 顕在的・潜在的自尊心の不一致と自己愛—自己愛の3下位尺度との関連から— 感情心理学研究, 21 (3), 162-168.
- Gök, B.G., & Yalçinkaya-Alkar, Ö. (2022). Clarifying the association of social anxiety with cognitive variables: The role of self-esteem, self-perception, fears of positive and negative evaluation, and post-event processing. *Scandinavian Journal of Psychology*, 64 (3), 278-287.
- Greenwald, A. G., & Banaji, M. R. (1995). Implicit social cognition: Attitudes, self-esteem, and stereotypes. *Psychological Review*, 102, 4 – 27.
- Greenwald, A. G., McGhee, D. E., & Schwartz, J. L. K. (1998). Measuring individual differences in implicit cognition: the implicit association test. *Journal of Personality and Social Psychology*, 74 (6), 1464-1480.
- Greenwald, A. G., Nosek, B. A., & Banaji, M. R. (2003). Understanding and using the Implicit Association Test: I. An improved scoring algorithm. *Journal of Personality and Social Psychology*, 85, 197-216.
- Heimberg, R. G., Brozovich, F. A., & Rapee, R. M. (2010) A cognitive-behavioral model of social anxiety disorder: *Update and extension*. In S. G. Hofmann & P. M. DiBartolo (Eds.), *Social anxiety* (second edition) : *Clinical, developmental and social perspectives*, New York: Academic Press; 395-422.
- 市川玲子・望月聡 (2015). パーソナリティ障害と顕在的-潜在的自尊感情間の乖離と関連 心理学研究, 86 (5), 434-444.
- Jordan, C. H., Spencer, S. J., Zanna, M. P., HoshinoBrowne, E., & Correll, J. (2003). Secure and defensive high self-esteem. *Journal of Personality and Social Psychology*, 85, 969-978.
- 金井嘉宏・笹川智子・陳峻・鈴木伸一料・嶋田洋徳・坂野雄二 (2004). Social Phobia Scale と Social Interaction Anxiety Scale 日本語版の開発 心身医学, 44, 841-850.

- Kessler, R. C., Berglund, P., Demler, O., Jin, R., Merikangas, K. R., & Walters, E. E. (2005). Lifetime prevalence and age-of-onset distributions of DSM-IV disorders in the National Comorbidity Survey Replication. *Archives of General Psychiatry*, *62*, 593-602.
- Kocovski, N. L. & Endler, N. S. (2000). Social anxiety, self-regulation, and fear of negative evaluation. *European Journal of Personality*, *14* (4), 347-358.
- 前田香・関口真有・堀内聡・Weeks, J. W.・坂野雄二 (2015). Fear of Positive Evaluation Scale 日本語版の信頼性と妥当性の検討 不安症研究, *6*, 113-120.
- McNeil, D. W. (2010). Evolution of terminology and constructs in social anxiety and its disorders. In S.G. Hofmann, & P. M. DiBartolo (Eds.), *Social Anxiety, second edition: Clinical, developmental, and social perspectives*. (pp. 3-21). London: Elsevier.
- Merikangas, K. R., He, J. P., Burstein, M., Swanson, S. A., Avenevoli, S., Cui, L., Benjet, C., Georgiades, K., & Swendsen, J. (2010). Lifetime prevalence of mental disorders in U.S. adolescents: results from the national comorbidity survey replication-adolescent supplement (NCS-A). *Journal of the American Academy of Child & Adolescent Psychiatry*, *49*(10), 980-989.
- Nuttin, J. M. Jr. (1985). Narcissism beyond Gestalt and awareness: The name letter effect. *European Journal of Social Psychology*, *15*, 353-361.
- 大杉尚之・小林正法 (2021). GUI ベースの web 実験作成ツール (lab.js) の紹介と実践 認知心理学研究, *19* (1), 1-15.
- Phillips, W. J., & Hine, D. W. (2014). En route to depression: self-esteem discrepancies and habitual rumination. *Journal of Personality*, *84*, 79-90.
- Rosenberg, M. (1965). *Society and the adolescent self-image*. Princeton, NJ: Princeton University Press.
- 桜井茂男 (2000). ローゼンバーグ自尊感情尺度日本語版の検討 筑波大学発達臨床心理学研究, *12*, 65-71.
- 笹川智子・金井嘉宏・村中泰子・鈴木伸・嶋田洋徳・坂野雄二 (2004). 他者からの否定的評価に対する社会的不安測定尺度 (FNE) 短縮版作成の試み—項目反応理論による検討— 行動療法研究, *30*, 87-98.
- Schreiber, F., Bohn, C., Aderka, I. M., Stangier, U., & Steil, R. (2012). Discrepancies between implicit and explicit self-esteem among adolescents with social anxiety disorder. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, *43*, 1074-1081.
- Tanner, R. J., Stopa, L., & De Houwer, J. (2006). Implicit views of the self in social anxiety. *Behaviour Research and Therapy*, *44*, 1397-1409.
- Hiller, T. S., Steffens, M. C., Ritter, V., & Stangier, U. (2017). On the context dependency of implicit self-esteem in social anxiety disorder. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*,

57, 118-125.

- van Tuijl, L. A., de Jong, P. J., Sportel, B. E., de Hullu, E., & Nauta, M. H. (2014). Implicit and explicit self-esteem and their reciprocal relationship with symptoms of depression and social anxiety: A longitudinal study in adolescents. *Journal of Behavior Therapy and Experimental Psychiatry*, *45*, 113-121.
- Warnock-Parkes, E., Wild, J., Thew, G., Kerr, A., Grey, N., & Clark, D. M. (2022). 'I'm unlikeable, boring, weird, foolish, inferior, inadequate': how to address the persistent negative self-evaluations that are central to social anxiety disorder with cognitive therapy. *The Cognitive Behaviour Therapist*, *15* (56), 1-21.
- Weeks, J. W., Heimberg, R. G., & Rodebaugh, T. L. (2008). The Fear of Positive Evaluation Scale: Assessing a proposed cognitive component of social anxiety. *Journal of Anxiety Disorders*, *22*, 44-55.
- Weeks, J. W., & Howell, A. N. (2012). The bivalent fear of evaluation model of social anxiety: Further integrating findings on fears of positive and negative evaluation. *Cognitive Behaviour Therapy*, *41*, 83-95.